

## 低速拡大海嶺の地震活動 - アデン湾東経49度付近 -

## Microearthquakes at slow spreading ridges: The Gulf of Aden, 49 East.

# 山田 知朗[1], 玉木 崇之[2], 望月 公廣[3], 中東 和夫[1], 金沢 敏彦[4]

# Tomoaki Yamada[1], Takayuki Tamaki[2], Kimihiro Mochizuki[3], Kazuo Nakahigashi[4], Toshihiko Kanazawa[5]

[1] 東大・地震研, [2] 東北・理・地物・センター, [3] 東大・海洋研・地質, [4] 地震研

[1] ERI, Univ. of Tokyo, [2] Center geophysics Science Tohoku, [3] MG&G, ORI, Univ. of Tokyo, [4] ERI, [5] ERI, Tokyo Univ

拡大速度の遅いアデン湾東経49度の海嶺軸上において20日間海底地震観測を行った。震源域の下限を含めた地震活動の特徴を精密に見積もるため、海底地震計10台を6km程度の間隔で、セグメント全体を完全に覆う形で配置した。

現在解析作業を行っている段階であるが、震源決定可能な地震が1日あたり100個程度あり、観測期間中の地震活動は活発であった。また地震活動は、セグメント中央部と各セグメント間の境界部に集中している。セグメント中央部の地震活動は極めて狭い領域に集中して発生している一方、各セグメント境界部の地震活動は大きなばらつきを持っている。

2000年12月14日から2001年1月2日にかけて、拡大速度の遅いアデン湾の海嶺軸上において海底地震観測を行った。観測域は、Afar プリュームの影響を殆ど受けていないと考えられる、東経49度にあるセグメントである。震源域の下限を含めた地震活動の特徴を精密に見積もるため、海底地震計10台を6km程度の間隔で、セグメント全体を完全に覆う形で配置した。海底地震観測期間中、エアガンによる発振とマルチチャンネル反射法探査を、同じ海域にて行っている。

現在解析作業を行っている段階であるが、震源決定可能な地震が1日あたり100個程度あり、観測期間中の地震活動は活発であった。また地震活動は、セグメント中央部と各セグメント間の境界部に集中している。セグメント中央部の地震活動は極めて狭い領域に集中して発生している一方、各セグメント境界部の地震活動は大きなばらつきを持っている。